



# ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

## News

(149)

2023年3月1日  
発行  
ルーテル学院大学  
日本ルーテル神学校  
後援会  
編集  
推進委員会  
http://www.luther.ac.jp/  
〒181-0015  
東京都三鷹市大沢 3-10-20  
TEL:0422-31-4611  
FAX:0422-33-6405

### ご卒業おめでとうございます！

後援会会長 小澤 周司



木々の目覚めと春の花々が彩りを増すなかで、全ての学業を修めた皆さんは、

皆さんの、新しい力が求められています。

後援会はルーテル学院大学と日本

振り返ってみれば、皆さんの学生生活は新型コロナウイルスによって大きな影響を受け、社会福祉や臨床心理分野における対人援助の専門家を目指して広く学ぼうとしていたのに、社会全体で度重なる人流抑制が求められたことなどから、とても不本意なものとなったかもしれません。しかし一方では、福祉施設や病院などだけでなく、人として寄り添うことや交流することを強く求めている方々の存在が浮き彫りとなり、社会的な支援やその方法、そして働き手の必要性が明らかになっ

てきています。皆さんの、新しい力が求められています。後援会はルーテル学院大学と日本ルーテル神学校を支えるため、全国のルーテル教会をはじめ同窓生や賛同いただける会社等にも加わっていただいている素晴らしい人材が育つよう常に祈り、そして経済的支援として献金を捧げてくださいました。これからも「ルーテル」の輝く学生と学校を応援して参ります。どうか、ご卒業される皆さまやご家族の皆さまも、この応援の輪に加わってくださいようお願いいたします。神様が卒業されるお一人お一人の新しい道をお守りくださるようお祈り申し上げます。

### ご支援ありがとうございます。

学校法人ルーテル学院  
理事長 大柴 譲治

「草は枯れ、花はしほむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。」  
(イザヤ40:8)



いつもルーテル学院のためにご支援をありがとうございます。皆さまからの熱いお祈りと尊いご献金は私たちにとても大きな力です。様々な意味で今の時代は困難な状況の中に置かれています。依然としてCOVID-19は終息して

しかし、そのような困難の中で私たちが根底から支えてくれるものがある。それは、イザヤ40:8が告げるように、神の生命のみ言葉です。大阪・釜が崎にはディアコニアセンター「喜望の家」があります。ドイツ人宣教師のエリザベス・ストロームさん（一九二二—二〇二二）が始めた働きですが、私はその「喜望の家」という命名も素晴らしいと思っています。喜びと望み（英: Joy and Hope / 独: Freude und Hoffnung）！ 私たちは今後とも喜びと望みをもって、しぶとくしなやかにめげずに、この世に力強く関わってゆく働き人を育成してゆきたいと願っています。皆さまの上に祝福をお祈りいたします。

おりませんし、ロシアによるウクライナ侵襲も続いている。地球規模での異常気象が猛威を振るっています。出口の見えない今後のことを思う時、私たちは暗澹たる思いにさせられます。

卒業されるみなさま、ご卒業おめでとうございます。ルーテルでの学生生活で楽しまれたことや頑張ったことなど、振り返ってみれば長くあつという間の日々だったのではないのでしょうか。私は卒業しても何年にもなりますが、サークル活動やレポートに追われた日々を先日のことのように懐かしく思い出しています。いつかまた戻りたい、そう思うこともたびたびあります。私は卒業後に地元へ戻って就職し、公務員として福祉の現場で働いています。支援の現場ではいろいろな壁にぶつかり、「正解」のないことが当たり前の中で常に悩み試行錯誤しながらも人に寄り添っていくことが必要です。ルーテルで学んだこと、感じたり考えたりしたことが、人に寄り添い支援をしていくときに自分の考えや行動の「軸」となっています。

これから卒業されるみなさまも、ひとりひとりそれぞれの社会に出て、いろいろな場で活躍なさっていくことと思います。これから先もルーテルで出会った先生や仲間とのつながりを大事にし、困ったときにはルーテルの学びを思い出して、人に寄り添うことの原点に立ち返ってみてください。そしてそれぞれの場所から、みなさまのあとに続いていくたくさんの方々の後輩たちへの応援やエールを、これからもよろしくお祈りいたします。

### 卒業生からの お祝いメッセージ

#### ルーテルでの学びを軸として

臨床心理学科 卒業生 稲福 美智



卒業おめでとうございます。ルーテルでの学生生活で楽

卒業されるみなさま、ご卒業おめでとうございます。ルーテルでの学生生活で楽しまれたことや頑張ったことなど、振り返ってみれば長くあつという間の日々だったのではないのでしょうか。私は卒業しても何年にもなりますが、サークル活動やレポートに追われた日々を先日のことのように懐かしく思い出しています。いつかまた戻りたい、そう思うこともたびたびあります。私は卒業後に地元へ戻って就職し、公務員として福祉の現場で働いています。支援の現場ではいろいろな壁にぶつかり、「正解」のないことが当たり前の中で常に悩み試行錯誤しながらも人に寄り添っていくことが必要です。ルーテルで学んだこと、感じたり考えたりしたことが、人に寄り添い支援をしていくときに自分の考えや行動の「軸」となっています。

### 大きなバックグラウンド

神学科キリスト教社会福祉コース  
卒業生 竹花 裕子



ご卒業おめでとうございます。私の在学中は「日本で一番小さく、学長が一番若い大学」と新聞に取り上げられた事がありました。そのため先生方と学生の距離が近く、良い事も悪い事も筒抜けでした。やんちゃな学生でしたが、この歳になっても折々に当時の先生方よりお声をかけて頂けるのは、そんな環境からだと思っています。

私は五人の子育てを経て、ボランティア団体幹事、放課後等デイサービスと勤務し、今は認知症型グループホームで働いています。どこで働いても底に流れる基本は学生時代に学んだものであり、その上に社会で学んだものを重ね、柔軟に取り組めたのはキリスト教社会福祉という精神の中で培われてきたものだと思います。卒業生の皆さん、自信を持って社会に出ていきましょ。皆さんには大きなバックグラウンドがあります。そのひとつに後援会があります。目に見えない所で在学中も支えて頂きましたから、今すぐではなくても覚えていて下さい。そして、迷ったり立ち止まる事があつたら仲間や母校の大きな懐に頼りましょ。一人ではないのです。

我が家は卒業生同士の結婚でしたので毎日が同窓会でしたが、夫が早逝し、その頃始めたSNSで先生や卒業生が私を見つけてくれて、今も賑やかに交流しています。保護司会の会合で恩師と再会という事もありました。恵みと導きがありますように祈っています。

### 三年ぶりに開催 二〇二二年度の 地区世話人会

10月16日(日)

#### 尾張・岐阜地区世話人会

J名古屋めぐみ教会にて

上村敏文先生（ルーテル学院大学准教授）の講壇奉仕の機会を利用して世話人会が開かれました（参加者七名）。上村先生から後援会の活動方針とルーテル学院の現状報告が、地区世話人代表の太田三男氏からは活動状況報告と、資料の配布方法についての工夫が紹介されました。後援会推進委員の菊池一生成氏からは日頃の支援へのお礼が述べられ、九月のオンライン一日神学校では宣教研修中の神学生たちと交流できたこと、全国どこからでも参加できたこと、全国どこからでも参加できたこと、オンラインの良さが後援会活動にも生かされていることが報告されました。

意見交換の時間では、教会員の高齢化や、複数教会を牧師への支援策として、信徒説教者の教育や定年退職者の協力が提案されました。

熊本地区宗教改革合同礼拝の前夜、三年ぶりに世話人会が開催されました（参加者十三名）。地区世話人代表の白鳥哲氏の司会で進行され、小澤周司会長より熊本地区での教会、福祉施設、学校の連携した取り組みは素晴らしい、今後もルーテル学院に学生を送り、献金を捧げていただきたいとの挨拶がありました。

10月29日(土)

#### 熊本地区世話人会

J健康教会にて

熊本地区宗教改革合同礼拝の前夜、三年ぶりに世話人会が開催されました（参加者十三名）。地区世話人代表の白鳥哲氏の司会で進行され、小澤周司会長より熊本地区での教会、福祉施設、学校の連携した取り組みは素晴らしい、今後もルーテル学院に学生を送り、献金を捧げていただきたいとの挨拶がありました。

神水教会で宣教研修中の河田礼生神学生は自身の召命について証しをし、意見交換の時間では、ルーテル学院大学の入学者を安定確保するために「少人数制」「一人ひとりを大切に育てる」特徴についてより広くアピールすべきこと、地方の教会員に三鷹のルーテル学院を身近に感じてもらうために熊本の施設で学生の実習を行うことが提案されました。

11月26日(土)

### 「神学校に献身者を送る 祈りの夕べin福岡」

J博多教会にて

石居基夫ルーテル学院大学学長の講壇奉仕の機会に開催され、約三十名が集まりました。

地区世話人代表の山口邦久氏の司会で進行され、箱崎、博多、聖ペテロ、福岡西、甘木各教会の世話人から活動報告があり、石居学長から神学校の「神学一般コース」とルーテル学院大学について資料を用いて詳しく説明されました。古財武久副会長からは自作のパワーポイントを用いて後援会の基本方針や活動内容についての説明が丁寧に行われました。

意見交換の時間では、地方の学生でも「神学一般コース」に関心を持っていくこと、そのための情報提供の強化や、遠方でも学べるオンライン授業について提案がありました。世話人の方々からはコロナ禍でアピールが思うようにできず心苦しく思っていること、そのような中でも博多教会ではバザーを開いて献金を捧げられたことが報告されました。

山口氏と一緒に準備にあられた地区世話人代表の日笠山太吉氏は止むを得ない事情によりご欠席でしたが、手書きの大きなポスター（写真）を用意して会を盛り上げてくださっていました。



三年ぶりに各地で対面開催された世話人会は、これからのルーテル学院と後援会にとって大きな力となりました。関係者の皆様に心より感謝いたします。（事務局）

後援会は、卒業生の皆さまと一緒に  
① 祈り、  
② 献金し、  
③ 学生を送り、  
ルーテル学院大学と  
日本ルーテル神学校を  
支えます！